

2021年度 委員会事業報告書

担当専務理事 浅井英昭

事務局長 平野匡彦

1. 委員会開催日 (12回)

| | | | | | |
|-------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 1 / 7 | 2 / 8 | 3 / 11 | 4 / 8 | 5 / 13 | 6 / 10 |
| 7 / 8 | 8 / 5 | 9 / 9 | 10 / 7 | 11 / 4 | 12 / 2 |

2. 事業報告

- | | |
|---------------------------|--|
| (1) 定時総会・臨時総会の担当 | 1月25日・2月22日・8月24日・12月20日 |
| (2) 例会(愛知ブロック名古屋会議)の担当 | 2月11日 |
| (3) 例会の担当 | 4月15日 |
| (4) 例会(東海地区東海フォーラム)の担当 | 7月03日 |
| (5) 例会の担当 | 8月24日 |
| (6) 西尾張6JC合同例会(9月例会)の担当 | 9月13日 |
| (7) JCI ASPACの担当【台湾】 | 8月19日～22日 |
| (8) JCI 世界会議の担当【南アフリカ共和国】 | 11月16日～20日 |
| (9) 総会の記録管理 | 1月25日・2月22日・8月24日・12月20日 |
| (10) 公開討論会の担当(蟹江・愛西・大治) | (中止) |
| (11) 委員長、副委員長セミナーの設営 | 2020年8月20日 |
| (12) 合同予定者委員会の設営 | 2020年9月02日 |
| (13) 名刺作成の窓口 | 2020年09月 |
| (14) JC会員名簿等に関する窓口 | 2020年11月 |
| (15) 定款諸規定及び会員名簿の作成 | 2020年12月 |
| (16) 誕生日祝い品の選定 | 2020年12月 |
| (17) ネームタグ、スローガンパネルの作成 | 2020年12月 |
| (18) 理事会ネームプレートの発注 | 2020年12月 |
| (19) シニアクラブ総会の担当 | 1月15日(書面開催) |
| (20) 基本資料の作成 | 1月 |
| (21) 委員会表彰及び100%祝い品の選定 | 12月 |
| (22) 卒業生記念品の選定 | 12月 |
| (23) 西尾張6JC正副理事長会議の担当 | 2020年10月27日 2021年2月16日・4月14日・6月23日・8月18日・10月26日 |
| (24) 理事会議案の作成・精査 | 通年 |
| (25) LOMポロシャツの発注 | 通年 |
| (26) 定款諸規定の見直し | 通年 |
| (27) LOM運営マニュアルの見直し | 通年 |
| (28) 慶弔の窓口 | 通年 |
| (29) 各諸団体の事業に関する窓口 | 通年 |
| (30) 総会・例会の出席者確認報告 | 通年 |
| (31) 新入会員の拡大 | 通年 |

(32) 新入会員の育成

通年

(33) その他の庶務

通年

3. 委員会メンバー

平野匡彦 加藤大晴 松本香澄

4. 反省点及び申し送り事項

本年度の事務局は、海部津島青年会議所の運動や活動が円滑に展開していくために、確実な事務局運営や、日本青年会議所や西尾張5青年会議所との関係性をより強固なものへと導き、また、メンバーには青年経済人としての見識を広める機会を提供する必要があると考え、事務局運営を行ってまいりました。確実な事務局運営という点について、理事会や正副理事長スタッフ会議の運営において、理事会の翌日に次回の理事会次第案を作成し前もって委員長に連絡することで次回理事会に上程する必要のある議案の連絡や、議案の番号を知らせることで、上程スケジュールの遵守やミスのない議案の上程を心がけたものの、予定者段階から資料提出期限を厳守させることができず度重なる再配信を招き、また、資料精査が十分ではない議案を上程することとなりましたこと深く反省いたします。上程スケジュールに関しては、事務局提出日にはアナウンスをかけ、各委員会とは個別のLINEグループを作成し、連絡を取り合ってきました。しかし、上程スケジュールの遵守には至らずスケジュール通りに上程ができませんでした。理事会やスタッフ会議終了後に毎回期限の日程をアナウンスし、議案についての進捗状況を逐一確認することが議案上程スケジュールを厳守させるために必要なことであると申し送りさせていただきます。議案の資料精査については、事務局に提出された議案に対して各委員会の個別のLINEグループで修正指示を繰り返しましたが、それでも誤字脱字やリンクミスなどの細かいミスの修正漏れがありました。自分が委員長の時もそうでしたが議案の大事な部分でなければ問題ない、事務局長が直して上程してくれるだろうという甘えがあるのではないかと思います。この甘さをなくすためには、「各議案につき〇個以上誤字脱字などのミスがあった場合は上程させない」というような厳しい規則が必要なのかもしれません。また、取るに足らないような細かいミスは修正にかかる時間の短縮もあり事務局長が修正してしまうことも多くありましたが、委員長自らに修正させることで細部まで目が行き届くようになり委員長の成長のために必要であると申し送りさせていただきます。理事会後には、審議可決議案をセクレタリーも含む理事会構成メンバーに配信し、その上で正副理事長、委員長にてドロップボックスで共有しました。

正副理事長スタッフ会議の際の次第では、各議案について議事録を確認したい場合を想定し、頭出しが容易になるのではと考え議事録を細かく分割したものを添付しました。前回の理事会での意見に対しての修正漏れを防ぐためにもすぐに確認ができるような運用方法が必要であることを申し送りさせていただきます。

総会運営に関しては、議長とも念入りにリハーサルを行い、細心の注意を払い設営、運営を行なっていました。その中でも、8月例会にて第168回臨時総会を行い直近10年間の間では開催したことのない総会例会を開催させていただきました。総会だけの開催、総会例会としての開催に関わらず、可能であれば何か企画を追加することがより有意義な総会にすることができるのではないかと実感しました。

2月例会（名古屋会議）と7月例会（東海フォーラム）では、2つの例会を通じて、日本青年会議所の運動や活動を知ることができ、海部津島青年会議所の例会や事業以外に東海地区協議会や愛知ブロック協議会の継続的な参加のしやすい事業の機会があることを知っていただき、多くのメンバーが東海地区協議会や愛知ブロック協議会の事業に参加している姿が見られたことから、LOM以外の活動に関わろうという意識をもっていただくことができました。

4月例会は、青年経済人としての素養を身につけるべく、先進的な知識を得て見識を広めていただくために開催しました。青年経済人とは、経営者に限らず社業を通じて地域に貢献しようとする人であると考えま

す。また、社業だけやっている、JC活動だけやっている、ではなくその両方を両立している人であると考えます。その青年経済人としてメンバーの皆様が活躍するための素養には、自身のスキルやコミュニケーション力、体力などが必要となります。その中でもすべての土台となるものは体力、すなわち元気な体であると思います。特に、青年会議所活動をしているメンバーの多くは30代であり、まだまだ自分は若いという自覚があり思ったように体が動くことが当たり前だと感じていると思われまます。病気にでもならないことには健康のありがたみを理解しているようで理解できていないと思います。そこで、自身の健康に関しての知識や関心を高めることが必要であり、本例会では「健康経営」について取り上げることとしました。「健康経営」は自身や社員の健康に気をつけることで、仕事の効率を上昇させ、離職率を低下させる。その先には、その取り組みが企業のイメージアップにつながり、ひいては会社の売り上げアップにつながることで、さらに社員の健康に対しての投資ができるというサイクルを目指す取り組みです。本例会ではその第一歩として自分自身の健康に関心を持ってもらいました。この「健康経営」という取り組み、考え方こそが先進的な知識であり、例会を受けたことで刺激を受け食事内容の見直しや運動を取り入れたことで、体型の改善したメンバーの姿が見られたことから素養を身につけていただくことができたと考えます。「健康経営」の考え方や自身の健康、将来について改めて考えていただくことで見識を広めていただくことはできたと考えます。

西尾張の同志が結集する場を創出するために、2015年より6年ぶりに一般社団法人海部津島青年会議所が主管を務めさせていただいた西尾張6JC合同例会（9月例会）は、2019年より開催方法が変わり式典のみの開催となりました。だからこそ、LOMメンバーがそれぞれの役割をしっかりとこなし対面とZoomによるハイブリッド開催の設営としたことで現地参加できないメンバーも式典に参加することができ、画面越しではあるものの西尾張6青年会議所の次年度理事長の目指すものを実際に聞くことで理解が進み共感しあうことで友情が深まり、さらなる団結へと導くことができたと考えます。

年間を通して、多くの例会や総会、その他の事業を担当しながら、規律の遵守については伝え方を工夫したり、議案作成においては同席して作成を促してきました。細かなスケジュールの共有やその物事に対しての準備についての経験談を伝えてきたことから各委員会と連携はとることができたと考えます。自分自身も議案に追われ、上程スケジュールを守ることができない場面もあり事務局長として率先して規律の遵守に対しての姿勢を見せることができなかった点において深く反省しております。以上を事務局の反省点及び申し送り事項とさせていただきます。

5. 委員長所見

今年は例年の事務局とは違い、担当させていただいた5つの例会のうち4つの例会が新たな知見を得るメンバー向けの例会を開催させていただきました。4月例会では、昨年より新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっている中ということもあり、メンバーには健康に対して関心を高めていただき、まずは病気にかからない、その上で健康増進をしていき次年度以降も活躍できるように体力面を整えていただきたいと思います。今回は「健康経営」の中でも「自身の健康」について焦点を当てたため自分でできることとしては食事、睡眠、運動の3つであり、目新しいことではないと思います。しかし、健康については知識として知っているだけでは効果がなく、実際に自分の生活に落とし込み毎日継続することが必要です。誰でも取り入れやすいよう継続するための仕方をお伝えさせていただきました。また、8月例会では「はちのすノート」という発想を学び、社業や議案作成時などに活用していただきたいと思います。総会に連動した企画とはどんなことをしたらいいのかと他LOMの総会を調べていた時に日本青年会議所の「議案ポケット」を参考にさせていただきました。アイデアというものは0から生み出すものではなくて、すでにあるものから発想するという「はちのすノート」で伝えたかったことを体感させていただきました。次に、2月、7月の対外事業では「質的価値」や「SDGs」について学び、物事を考えるときのゼロからではなく新たな視点、指標として持っていただきたいと思います。Zoomではありましたが対外事業ということもあ

り、メンバーには雰囲気だけでも感じていただきたく余すところなく例会の企画として盛り込みました。理事会でも不要であれば全て出席する必要はないと助言をいただきまして、目的達成のための優先順位は理解していますが、対外事業という面もあり、せつかくの用意されている機会は全て参加してほしいという気持ちから、参加しないという選択はできませんでした。9月例会の際には例会を少しでも効果のあるものにしようと最後の最後まで自分にできることを考え実行するという例会開催に対しての取り組み方の姿勢を示せたと考えます。例会以外にも、西尾張6 J C 正副理事長会議、4回の総会や開催することはできませんでしたが3回の公開討論会など、設営や準備など多くの経験をさせていただきました。1時間、2時間であっても念入りな準備が必要であると改めて設営に対する大変さを実感しました。

公開討論会については、蟹江町、愛西市、大治町と予定していましたが開催することはできませんでした。しかし、会場設営の方法や当日のシナリオ、候補者への参加のお願いなど貴重な体験をさせていただきました。いずれも新型コロナウイルス感染症対策として、対面開催ではなく無観客でのWeb配信による開催方法としたことが、どれだけの市民町民に声が届くのかという疑問から候補者の参加を渋らせた要因と思われる。候補者がぜひ紹介してほしいと思うほどの拡散力のある媒体を持つことが必要であると感じました。

事務局は委員会運営に関しての知識が得られる機会が少ないように思います。自分自身が事務局セクレタリーの翌年が委員長と委員会を経験したことが無いまま委員長を担った経験から、事務局メンバーには委員会がどのようなものか体験できるよう事務局でも委員会を開催してきました。また、スタッフ会議での議案を事務局メンバーにも配信することで閲覧できるようにし、各委員会との個別のLINEは事務局次長と副委員長を招待しやり取りを見ていただきました。議事録作成においては事務局メンバーと事務局次長が作成し、事務局次長が確認した上で事務局長に提出するという段階を経て作成することで各メンバーに責任を持って作成していただくことができ、また回数を経るごとに事務局長が修正する箇所も減少していき議事録の質も高まっていきました。事務局のメンバーには、総会、例会、理事会運営、セクレタリーと多くの担いを引き受けていただき、多くの場面で支えていただきました。今年の数多くの経験を糧に、次年度以降も存分に力を発揮していただきたいと思います。

年間を通して、事務局長という職を担わせていただき委員長とは違った学びを多く得ることができました。まずは、事務局担当の議案や理事会に上程する他委員長の議案の精査、議事録のチェックなど常に時間が足りないことへの焦燥感を感じていました。時間に追われながら議案の作成をしていく中で純粋に処理能力が高くなったように思います。処理速度の早め方として、決断することの大切さを知りました。不確定なことを抱えているとそれが常に頭の中にあり容量を占めてしまうことで、他に考えないといけないことがあっても手につかないと気づきました。5分、10分といった隙間時間の有効な使い方として、小さなことから決断して頭の中の容量を広げていくことを心がけた結果次々と別のことを考えていけるようになりました。また、数多くの議案を確認していく中で、ミスを素早く見つけることができるようになり、細かい部分に意識がいくようになり、作り込まれた議案とそうではない議案を見分けることができるようになりました。J C で言い伝えられている役職を受けるごとに年々器が大きくなっていくという話を、委員長、事務局長を経験させていただいたことで実感させていただきました。

事務局の一番の担いとしての、理事会運営に対しては反省する面しかありませんが、事務局長として得た経験を次年度以降に活かし、今後の活動の糧とさせていただきます。以上で私の所見とさせていただきます。

6. 収 支 決 算

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|------|-----|------|-----|
| 予 算 | 決 算 | 予 算 | 決 算 |
| | | | |

| | | | | | | | |
|-----|---------|-----|--------|------|---------|------|--------|
| 事業費 | 225,532 | 事業費 | 86,454 | (10) | 75,000 | (10) | 0 |
| | | | | (15) | 260 | (15) | 260 |
| | | | | (16) | 25,000 | (16) | 21,505 |
| | | | | (20) | 272 | (20) | 272 |
| | | | | (21) | 50,000 | (21) | 39,417 |
| | | | | (22) | 75,000 | (22) | 25,000 |
| 合計 | 225,532 | 合計 | 86,454 | 合計 | 225,532 | 合計 | 86,454 |